

創造性育む「人に会う」旅を

県大・友原准教授らが新刊

友原嘉彦・県立大准教授（左）、新名阿津子
・高知大講師らが手掛けた新刊
（高知市の県公立大永国寺キャンパス）



高知県立大学の友原嘉彦准教授（42）が編著を担当した新刊「クリエイティブツーリズム―『旅人』に会いに行く旅」が刊行された。観光学、ジオパーク研究などの専門家9人がそれぞれの研究分野から、自身の創造性を育む旅を提案している。

観光学の視点で漫画家のさくらももこを研究している友原准教授は、さくらの漫画やエッセーを引用しながら、出身地である静岡市清水区のゆかりの場所や食べ物などを紹介。「同じ景色をみて、自身がどう感じたか味わい、クリエイティブティ―を高め」る旅の魅力をつづっている。

日本ジオパーク委員会委員でもある高知大の新名阿津子講師（43）は、隠岐ユネスコ世界ジオパーク（島根県）が、強力なリーダーシップの下で地域内外のネットワークを広げて、「新しく創造的な観光」を生み出してきた過程を解説。昨年オープンしたホテルが観光客と町民との交流の場になっていることや、環境・観光分野の地域団体との連携が功を奏していることにも着目している。

友原准教授と新名専任講師は「自分ならではの旅を見つけるヒントにしてほしい」と話している。

（古今書院・35220円）

（松田さやか）